

指定管理業務点検・評価シート（令和5年度業務）

令和6年8月1日

施設名	とっとりバイオフィロントピア	所在地	米子市西町86番地
施設所管課名	商工労働部産業未来創造課	連絡先	0857-26-7690
指定管理者名	公益財団法人鳥取県産業振興機構	指定期間	平成31年度（令和元年度）～令和5年度

1 施設の概要

設置目的	バイオ産業の集積の形成及び活性化を図り、県内産業の振興に寄与する。
設置年月日	平成23年4月1日
施設内容	○建築面積：1,260.84㎡ ○施設内容：研修室1、機器分析室1、遺伝子実験室1、細胞実験室1、実験室4、居室4、動物飼育室4、管理室1、オープンラボ1
利用料金	（別表のとおり）
開館時間	午前9時～午後5時 ただし、セキュリティーカードを使用することで、開館時間外の利用も可能な場合あり。
休館日	○日曜日、土曜日、国民の祝日 ○12月29日～1月3日 ただし、セキュリティーカードを使用することで、休館日の利用も可能な場合あり。

2 指定管理者が行う業務

委託業務の内容	○施設設備の維持管理に関する業務（施設設備の保守管理、修繕、清掃、保安警備等） ○施設設備、機器の利用の許可、利用料金の徴収等に関する業務 ○その他施設の管理運営に必要な業務（利用者の受付・案内、付属設備・備品の貸出、利用指導・操作、利用者へのサービスの提供、施設の利用促進、その他施設の管理運営に必要な業務） ○利用者の研究開発・事業化の支援に関する業務（相談・問い合わせへの対応、情報収集・情報提供、産学官連携の推進等） ○バイオ産業に従事する専門的な人材の育成に関する業務
---------	---

3 施設の管理体制

管理体制	無期職員：3名、任期付職員：5名〔計8名〕
	<p>【体制図等】</p> <p>施設長（任期付職員、機構バイオフィロントピア推進室室長兼務）</p> <ul style="list-style-type: none"> — チーフスタッフ（無期職員） <ul style="list-style-type: none"> — 総務管理担当スタッフ（任期付職員） — 機器担当スタッフ（無期職員） — 会計担当スタッフ（任期付職員、機構本部駐在） — 事業推進コーディネーター（無期付職員） — 人材育成コーディネーター（任期付職員） — 研究支援コーディネーター（任期付職員）

4 施設の利用状況

利用者数（人） ※貸実験室等入居者含む		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	R5年度		1,932	2,109	2,082	2,146	2,052	2,063	2,310	2,274	2,401	2,177	2,234	2,259
R4年度		2,387	2,374	2,417	2,269	2,050	2,161	1,979	1,840	1,892	1,860	1,719	1,855	24,803
増減		△455	△265	△335	△123	2	△98	331	434	509	317	515	404	1,236

利用料金収入 （千円）		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	R5年度		1,156	1,208	1,454	1,536	1,698	1,710	1,724	1,718	1,575	1,693	1,602	1,923
R4年度		1,466	1,264	1,052	1,148	1,024	993	1,094	1,428	1,200	1,110	1,380	1,106	14,265
増減		△310	△56	402	388	674	717	630	290	375	583	222	817	4,732

5 収支の状況

（単位：千円）

区分		R5年度	R4年度	増減	
収入	事業収入	賃借料	8,335	7,896	439
		機器使用料	3,193	3,126	67
		その他	154	385	△231
		小計	11,682	11,407	275
	事業外収入	光熱水費 動物飼育管理料負担金収入	7,468	3,247	4,221
		自動販売機手数料	61	71	△10
		県委託料	65,410	71,441	△6,031
		雑入	76	0	76
	小計	73,015	74,759	△1,744	
	計	84,697	86,166	△1,469	
支出	人件費	28,632	29,462	△830	
	管理運営費	56,065	56,704	△639	
	計	84,697	86,166	△1,469	
収支差額		0	0		

6 労働条件等

確認項目	状況			備考	
	無期職員	任期付職員	任期付職員		
雇用契約・ 労使協定	労働条件の書面による提示	就業規則、任用条件 通知書	就業規則、任用条件 通知書	就業規則、任用条件 通知書	※書面の名称を記入
	就業規則の作成状況	有	有	有	※常時10人以上の労働者を使用する場合は作成、届出が必要
	労使協定の締結状況	時間外労働及び休日労働に関する労使協定	時間外労働及び休日労働に関する労使協定	時間外労働及び休日労働に関する労使協定	※労働基準監督署長への届出が必要な協定の有無
労働時間	所定労働時間	7.75時間以内/日、 38.75時間以内/週	7.75時間以内/日、 38.75時間以内/週	7.75時間以内/日、 38.75時間以内/週	※幅がある場合は上限、 下限を記入
	時間管理の手法	自己申告	自己申告	自己申告	※タイムカード、ICカード、 自己申告、使用者の現認 などの別を記入
	休暇、休日の状況	休暇：年20日 休日：毎週土・日曜日、 国民の祝日	休暇：年20日 休日：毎週土・日曜日、 国民の祝日	休暇：年20日 休日：毎週土・日曜日、 国民の祝日	※幅がある場合は上限、 下限を記入
給与	給与金額	228～333千円/月	219～308千円/月	178千円/月	※平均月額を記入
	最低賃金との比較	適	適	適	※適否を記入
	支払い遅延等の有無	無	無	無	※有無を記入
安全衛生	一般健康診断の実施	年1回実施			
	産業医の選任	選任の要否：否	選任状況：選任なし		※規模の要件あり
	安全管理者の選任	選任の要否：否	選任状況：選任なし		※業種・規模の要件あり
	衛生管理者の選任	選任の要否：否	選任状況：選任なし		※規模の要件あり
	安全衛生推進者（衛生推進者）の選任	選任の要否：否	選任状況：選任なし		※業種・規模の要件あり

(参考)

○労働基準監督署長への届出が必要な労使協定の例（労働基準法に基づくもの）

- ・労働者の貯蓄金をその委託を受けて管理する場合（労働基準法第18条）
- ・1ヶ月単位の変形労働時間制（労働基準法第32条の2 就業規則に定めた場合には届出不要）
- ・1年単位の変形労働時間制（労働基準法第32条の4、第32条4の2ほか）
- ・1週間単位の変形労働時間制（労働基準法第32条の5）
- ・時間外労働・休日労働（労働基準法第36条 いわゆる「36協定」）
- ・事業場外労働のみなし労働時間制（労働基準法第38条の2 事業場外労働が法定労働時間内の場合には不要）
- ・専門業務型裁量労働制（労働基準法第38条の3）

○各種管理者等の業種・規模に係る要件（労働安全衛生法に基づくもの）

種別	業種	規模（常時使用する労働者数）
産業医	全ての業種	50人以上
安全管理者	林業、鉱業、建設業、運送業、清掃業、製造業（物の加工業を含む。）、電気業、ガス業、熱供給業、水道業、通信業、各種商品卸売業、家具・建具・じゅう器等卸売業、各種商品小売業、家具・建具・じゅう器小売業、燃料小売業、旅館業、ゴルフ場業、自動車整備業及び機械修理業	50人以上
衛生管理者	全ての業種	50人～200人（1人選任）
		201人～500人（2人選任）
		501人～1,000人（3人選任）
		1,001人～2,000人（4人選任）
		2,001人～3,000人（5人選任）
		3,001人以上（6人選任）
安全衛生推進者	安全管理者と同じ	10人以上50人未満
衛生推進者	安全管理者の選任を要する業種以外の業種	10人以上50人未満

7 サービスの向上に向けた取組み

区 分	取 組 み 内 容
人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで主流であったオンラインでの開催に加え、5月頃から新型コロナウイルス5類に移行したことに伴い、人材育成セミナーの現地開催も再開し、セミナー内容に応じた形式での開催を実施し受講者へのニーズに応えた。 セミナー 開催数 16講座（現地・WEB形式で実施） 受講者数 438名 ・バイオビジネス実践講座では、共同研究開発やキャリアに関するセミナーを開催し、共同開発契約を始めとした知財関連について事業を行う上で、大変役立つ内容であった。 ・バイオテクニシャン養成講座では、今年度は「新技術勉強会」と称し、新たな測定技術や試薬など、バイオ関連の最新技術を学べる勉強会を企画。開催内容によってはセミナーに併せて、実機に触れられるデモ会も開催するのを特徴とした。新しい技術を鳥取にしながら体験できる機会は非常に魅力的であり、参加者からも好評を得た。
設備整備	<ul style="list-style-type: none"> ・とっとりバイオフロンティア2階開放機器実験室に設置しているCO2インキュベータ2台が故障した。本機器は細胞培養に最適な環境を作るために必須であるため、県と相談の上、2台購入し利用者が安心して実験ができるよう整備した。 ・実験機器については日常点検を行った上で、不調等が確認された場合は直ちに設置業者またはメーカーによる対応を行った。 ・職場巡視、化学物質管理委員会、化学物質セミナーを実施し、入居企業や開放機器利用者への化学物質の取扱い、及び実験環境の整備促進を行った。 ・動物飼育室の微生物モニタリングを定期的に行い、SPFグレード相当の品質保証を行った。また遺伝子組換え実験安全委員会、及び動物実験委員会の運営を行い、コンプライアンスに沿った実験施設運営を行った。 ・動物飼育室での温湿度管理は飼育中の動物の安全性を保持するため、温湿度センサーを用いて飼育室の温湿度を収集・管理し、利用担当者へ通知を可能とした「温度管理システム」を導入した。
事業化支援	<ul style="list-style-type: none"> ・動物飼育管理の管理者として、実験動物の飼養状況の自己点検・評価内容を当該研究機関以外の者が定期的に検証すること（外部検証）を努力義務として定められており、外部資金申請や共同研究・受託研究契約の際に、外部検証の結果の提出が求められることがあり、入居者への事業化支援に必要な事項として、付随する規則改正など準備の取り組みを行った。 ・バイオ分野の動向（JBA創薬モダリティ基盤研究会等）やニーズを調査し、入居企業の事業推進に役立つ情報を適宜フィードバックし、事業支援を行った。 ・バイオ系専門展示会（第7回バイオ医薬EXPO、BioJapan2023）への共同出展を実施し、販路開拓の支援を行った。 ・マイクロプレートリーダーの分析結果の信頼性確保の要望に対し、分析機器の感度、精度分析を行い、企業へのサービス向上を行った。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生向け体験学習において、とっとりバイオフロンティアの事業紹介や施設見学を実施した。 ・BIO Internation Convention 2023（ポストン）で、ジェトロ（日本貿易振興機構）のジャパンパビリオンでとっとりバイオフロンティアのプロモーション動画を上映し、広報活動を行った。 ・鳥取県医療・福祉機器展示会商談会にとっとりバイオフロンティアブースを設置。また事業に関するセミナー講演を実施した。 ・とりだい病院外来・中央診療棟1階通路壁面展示スペースにとっとりバイオフロンティア事業紹介パネルを掲示。同時に設置したパンフレットの補充が必要なくらい、一般の方にも広く周知できた。

8 利用者意見への対応

利用者意見の把握方法	利用者の要望、意見については5月～6月に行った入居企業ヒアリングでの聞き取りや、日々、利用者とのコミュニケーションを図り、要望への対応、課題の解消に努めた。
------------	--

利用者からの苦情・要望	対応状況
既存のポストは、大型の封筒が入らず、受け取りに困っている。	大型封筒が受け取れる大きさのポストを設置。
染色体解析専用顕微鏡の設置時の検査証の写しを頂きたい。	要望内容の書類（PDF）を提供。
実験で使用予定の機器について点検・校正証明書を頂きたい。	いただいた機器名の一覧表より、TBF で提供可能な点検記録等を提供。
自動セルカウンター（2階設置機器）の管理についての問い合わせ。	当施設での管理内容、メーカー資料を提供。
3階飼育室のクリーンレベルについて ・大学からTBFへ、感染動物を移動させる運用も考えられるので禁止しないでほしい。 ・別の入居企業の部屋に感染動物がいるのはやむを得ないと考えている。自社飼育室はクリーンに保ちたいので、動線がクロスしないよう徹底してほしい。	大学と入居企業の要望を満たす管理体制を敷き、マニュアルに明文化した。具体的には、 飼動物の床敷交換を『入居企業飼育室→大学飼育室』の順に実施し、白衣・手袋はこれまでどおり、部屋ごとに新しいものに付け替える。
3階廊下のゴミ箱は、飼育室入退出時の発生ゴミ（使用済手袋やマスク、ヘアークャップ）、飼育室由来のゴミ入れとしていて、飼育室由来のゴミの定義があいまいで、区別が分かりにくい。そこで廊下に感染性ゴミ箱（段ボール）を置いてもらいたい。	3階廊下には使用済白衣入れ、可燃ゴミ、感染性ゴミ（段ボール）の3つを設置した。 感染性ゴミ（段ボール）には、使用済手袋・飼育室床ゴミを入れてください。 感染性ゴミ（段ボール）にはフタがないので、上に置くだけの簡易フタで運用。
動物の死体は紙に包んでから死体入れ用の黒い袋に入れ捨てるようにしているが、体液が出ない安楽死方法なら紙に包まずに黒い袋に入れたい。	体液が出ない死体（頸椎脱臼による安楽死死体など）は黒い袋にそのまま入れて良いようにルール変更。
動物飼育室の電灯タイマースイッチ 強制点灯のON/OFF が一見して識別できないので、消し忘れトラブルにつながりやすい。	強制点灯スイッチ使用上の注意点を、再度利用者に周知。ON/OFF 表示ありスイッチパネルへの交換を予定したが、年度内施工が難しかったため次年度始めに実施予定。
当初予定が変更となり海外展示会（BIOポストン）に参加できなくなったため、出展企業への技術紹介と情報収集の代行を依頼したい。	事前に預かった企業リストを中心にブースを訪問し名刺交換。面談サマリーをレポートし、先方の担当者と連絡先を報告。
実機を伴ったデモ会を開催してほしい。	Zoom セミナーならびに測定機器のデモ会を実施し、実際のサンプルを使って機器の使用感やデータ解析などを実施。
県外企業からの動物実験可能な施設、レンタルラボ、入居についての問い合わせ。	メール、電話での打ち合わせ対応後、施設見学後、開放機器の利用につながった。

プレートリーダーの仕様等についての問い合わせ。	現状設置の機器プレートリーダーEnSight（株式会社PerkinElmer 社製）について案内。
教育訓練（動物・遺伝子）は、現状、一度受講したら永久フリーパスの状況だが、再教育訓練の仕組みを作る予定はないか。	再教育訓練システムを組み、令和6年3月より開始。
再教育訓練は鳥大でも受講しているので、同じものを受けないで済むよう免除や時短などの仕組みをつくってほしい。	鳥取大学で再教育訓練を受講済の人は、再教育訓練の講義内容を一部スキップできるような仕組みにした。利便性を高めるために、Youtube アーカイブ配信 & ウェブテストによる受講形式とした。
イモリの卵の実験を低温（15℃）で卵をインキュベートすることで、孵化が遅延するかどうかを見たいが、TBF 開放機器を使うことが可能か。	卵の実験は「可」。「動物個体（イモリ）の実験は不可」として室長から返答。
バイオフィロンティア職員にも染色体解析顕微鏡を使えるようになってもらいたい。	機器納入業者に依頼し、TBF 職員4名・利用者1名を対象とした入門編講習を実施。
申請を予定している遺伝子組換え実験計画書（新規）の内容について相談。	カルタヘナ法およびTBF 規則に照らし、書き方を指南。
培養肉を扱う企業への転職を予定しているが、培養細胞を扱った経験がないので、とっとりバイオフィロンティアの開放機器を使用して実際に細胞培養実験をやってみたい。	当施設スタッフと一緒に、下記のトレーニングを実施。 ①基本的な実験手技のトレーニング 利用者講習会の受講 実験室の入室手順 マイクロピペット、オートピペッター、遠心機、顕微鏡の使い方 ②基本的な培養操作の実践 クリーンベンチの使い方 凍結細胞の融解・培養・顕微鏡観察をひとつおし教示。
展示会（バイオ医薬EXPO、BioJapan）でLED ライトパネルを使用したい。	LED ライトパネルを設置。
展示会（BioJapan）で大型モニターによる画像と音声のデモンストレーションができるよう、音響設備を整えてほしい。	音響設備を設置。
高等学校（西部）からSSH 海外研修（オーストラリア・アデレード）での研修企画について、アドバイスを求められた。	進め方と内容について、何点か助言。充実した研修になった模様。
高等学校（中部）SSH 事業応募に向けた事前準備活動に、協力を求められた。	実験機器の選定等について助言、教員向けワークショップを開催。R6 年度からのSSH事業に採択が決定。
ベンチャービジネスの実践や研究等に役立つ本を購入してほしい。	希望の図書を購入し、入居企業への貸し出しを行った。

利用者からの積極的な評価	<ul style="list-style-type: none"> ・大型展示会の装飾で採用したLEDパネルは大変見やすく集客力もあり、大手企業の明るくて華やかなブース装飾にも劣ることなく宣伝できた。可能な限り次回からもLEDパネルを採用して欲しい。 ・人材育成セミナーでは、「新技術勉強会」と称したバイオ関連の最新技術を学ぶ勉強会と実際に機器に触れるデモ会のコラボ企画が大変勉強になり有難い。 ・動物飼育室の環境整備、機器の使用法や不具合に対する迅速な対応に感謝する。 ・知りたい情報の図書の購入や貸し出しをしてもらい助かる。 ・バイオ分野の動向やニーズ調査等の研究会やセミナー情報を貰えるので、関心のある内容をチェックできる。 ・新しく企画している実験計画の安全性について、館内での実施可否と実施する場合の条件を的確に伝えてもらい、研究開発が円滑に進められている。
--------------	---

9 指定管理者による自己点検

〔成果のあった取組み・積極的に取り組んだ事項〕
<p>●海外大学・支援機関への視察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療用ロボットなどの研究開発が進んでいるタイ・マヒドン大学へ視察。工学部長や医学部長、大学長との意見交換でき、今後の持続的な交流についての確認ができた。 ・韓国江原道地域のバイオ・ヘルス産業クラスターへの視察を実施した。地域連携による直線的・切れ目のない支援により、ベンチャーの自立化や各市の都市構想に合致した工場の設立に繋がる流れが、バイオ産業の発展の要因となっている。 <p>●人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生向けワークショップは3年目を迎え、当方の企画以外にも県内高校から毎年体験学習を依頼されるなど、教育現場に徐々にとっとりバイオフロンティアの人材育成事業が認知されている。 ・技術者教育用eラーニングを導入した結果、入居企業や利用者に情報収集や自己研鑽に大いに役立っているとの声があった。 ・測定技術や試薬など、バイオ関連の最新技術を学ぶ「新技術勉強会」は、セミナーに併せて、実際に機器に触れられるデモ会も開催した。新しい技術を鳥取にしながら体験でき参加者から非常に好評を得た。 <p>●施設整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動物飼育室での温湿度管理は飼育中の動物の安全性を保持するため、温湿度センサーを用いて飼育室の温湿度を収集・管理し、利用担当者へ通知を可能とした「温度管理システム」を導入した。このことは、利用者の動物実験における安心に繋がった。また、本システムを製作した企業のHPにプレスリリースされ、更に利便性を求めるシステムへの改良に期待できる案件となった。 <p>●PR活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生向け体験学習において、とっとりバイオフロンティアの事業紹介や施設見学を実施した。 ・BIO Internation Convention 2023（ボストン）で、ジェトロ（日本貿易振興機構）のジャパンパビリオンでとっとりバイオフロンティアのプロモーション動画を上映し、広報活動を行った。 ・鳥取県医療・福祉機器展示会商談会にとっとりバイオフロンティアブースを設置。また事業に関するセミナー講演を実施した。 ・とりだい病院外来・中央診療棟1階通路壁面展示スペースにとっとりバイオフロンティア事業紹介パネルを掲示。同時に設置したパンフレットの補充が必要なくらい、一般の方にも広く周知することができた。

〔現在、苦慮している事項〕〔今後、改善・工夫したい事項・積極的に取り組みたい事項〕
<p>〔現在、苦慮している事項〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設内の湿気（結露・カビ）対策 ・コーディネーター職員の公募（適任の応募がない） <p>〔今後、改善・工夫したい事項・積極的に取り組みたい事項〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外展開への支援（染色体関連企業への展開支援など） ・バイオ産業のすそ野の拡大（バイオ・医工連携など） ・様々な専門家を招いての最新のバイオに関するセミナーの開催 ・県内中高生に向けた科学ワークショップや校外学習への協力

10 施設所管課による業務点検

項 目	評 価	点 検 結 果
<p>〔施設設備の維持管理・緊急時の対応等〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○施設設備の保守管理・修繕 ○施設の保安警備、清掃等 ○事故の防止措置、緊急時の対応 	3	○おおむね協定書の内容とおり適切な管理が行われており、計画・目標に近い実績を達成している。
<p>〔施設の利用の許可、利用料の徴収等〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○利用の許可 ○適正管理に必要な利用者への措置命令 ○利用料金の徴収、減免の実施 	3	○おおむね協定書の内容とおり適切な管理が行われており、計画・目標に近い実績を達成している。
<p>〔その他管理施設の管理に必要な業務〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○利用受付・案内 ○附属設備・備品の貸出し ○利用指導・操作 	4	○協定書の内容以上の適切な管理が行われており、計画・目標を上回る実績があった。 (コメント) ・とっとりバイオフロンティア2階解放機器実験室に設置しているCO2インキュベータ2台が故障したが、指定管理者と県で協議の上、2台を購入。また動物実験室に動物の安全性を確保するために温度管理システムを導入し、飼育室内の温湿度を収集・管理し、利用担当者への通知を可能にし、利用者が安心して利用できるよう整備を行った。

<p>〔利用者サービス〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○開館時間、休館日、利用料金等 ○利用者へのサービス提供・向上策 ○施設の利用促進 ○個人情報保護、情報公開 ○利用者意見の把握・対応 	4	<p>○おおむね協定書の内容とおり適切な管理が行われており、計画・目標に近い実績を達成している。 (コメント) ・これまで主流であったオンラインでの開催に加え、5月頃から新型コロナウイルス5類に移行したことに伴い、人材育成セミナーの現地開催も再開し、セミナー内容に応じた形式での開催を実施し受講者へのニーズに応えた。セミナー開催数16講座(現地・WEB形式で実施) 受講者数438名</p>
<p>〔利用者総合支援業務の実施状況〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○利用者の研究開発及び事業化推進 (事業計画、進捗状況把握等) ○利用者のニーズ把握、情報提供 ○人的ネットワークの構築 ○事業運営委員会等の運営 	4	<p>○協定書の内容以上の適切な管理が行われており、計画・目標を上回る実績があった。 (コメント) ・バイオ分野の動向(JBA創薬モダリティ基盤研究会等)やニーズを調査し、入居企業の事業推進に役立つ情報を適宜フィードバックし、事業支援を行った。 ・バイオ系専門展示会(第7回バイオ医薬EXPO、BioJapan2023)への共同出展を実施し、販路開拓の支援を行った。</p>
<p>〔バイオ人材育成事業の実施状況〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人材育成カリキュラム作成・研修実施 ○広報等 ○事業評価、ニーズ把握、効果検証 	4	<p>○協定書の内容以上の適切な管理が行われており、計画・目標を上回る実績があった。 (コメント) ・これまで主流であったオンラインでの開催に加え、5月頃から新型コロナウイルス5類に移行したことに伴い、人材育成セミナーの現地開催も再開し、セミナー内容に応じた形式での開催を実施し受講者へのニーズに応えた。セミナー開催数16講座(現地・WEB形式で実施) 受講者数438名 ・バイオビジネス実践講座では、共同研究開発やキャリアに関するセミナーを開催し、共同開発契約を始めとした知財関連について事業を行う上で、大変役立つ内容であった。 ・バイオテクニシャン養成講座では、今年度は「新技術勉強会」と称し、新たな測定技術や試薬など、バイオ関連の最新技術を学べる勉強会を企画。開催内容によってはセミナーに併せて、実機に触れられるデモ会も開催するのを特徴とした。新しい技術を鳥取にしながら体験できる機会は非常に魅力的であり、参加者からも好評を得た。</p>
<p>〔収入支出の状況〕</p>	3	<p>○おおむね協定書の内容とおり適切な管理が行われており、計画・目標に近い実績を達成している。 (コメント) 昨年度より、利用者数が増えており、利用料、使用料収入とも増加している。</p>
<p>〔職員の配置〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事業全体の総括責任者 ○染色体工学技術を中心としたバイオテクノロジーに関する専門知識を有する者 ○動物飼育に関する経験者 ○利用者の要望に応えられる体制 	3	<p>○おおむね協定書の内容とおり適切な管理が行われており、計画・目標に近い実績を達成している。</p>
<p>〔会計事務の状況〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○不適正事案や事故等の有無 ○業務報告書(月次)における内部検査結果 ○利用料金等に係る適正な会計事務 (利用券、利用券管理簿の管理など) ○必要な規程類の整備 (会計規程、協定書等で整備が定められている規程など) 	3	<p>○おおむね協定書の内容とおり適切な管理が行われており、計画・目標に近い実績を達成している。</p>
<p>〔関係法令の遵守状況〕</p>	3	<p>○おおむね協定書の内容とおり適切な管理が行われており、計画・目標に近い実績を達成している。</p>
<p>総 括</p>	3	<p>○おおむね協定書の内容とおり適切な管理が行われており、計画・目標に近い実績を達成している。</p>

《評価指標》 5：協定書の内容について高レベルで実施されており、また、計画・目標を上回る実績があり、
4：協定書の内容以上の適切な管理が行われており、計画・目標を上回る実績があった。
3：おおむね協定書の内容とおり適切な管理が行われており、計画・目標に近い実績を達成している。
2：協定書の内容に対して不適切な事項が認められ、また、計画・目標を達成していない。
1：協定書の内容に対して重大な違反事項が認められる、指摘済みの不適切事項が放置されている、
※総括欄は、各項目の平均の小数点以下第2位を四捨五入した数値を基本に、総合的に評価する。